



やまがたの未来をデザイン（よりよく）する  
 （デザイン思考を活用し、社会とのつながりの大切さや、やまがたへの愛着を育てるとともに、社会や地域のために自分たちが  
 できることを考え、行動する力を養う）

私たちの Mission・探究テーマ：

## 廃棄される果物を活用した「果物染め」を発信しよう

令和6年度 山形県立東桜学館中学校 2年 4名グループ探究

### 1. 探究背景・目的

今年度のサクランボは、双子果が多く、これらは廃棄されると思っていたが、価格を下げて売られていた。規格外などのまだ食べることが可能な果物は、加工品として活用されているが、腐ってしまった果物などの廃棄物の活用方法は知らず、新たな活用方法を探り、広めることで新しい付加価値をつけられると考えた。※ここで言う「廃棄される果物」とは、可食部のほかに、果物の皮や種、軸のこと

### 2. 探究内容

【私たちが考えた活用方法の条件】

- ① 食用以外での活用方法
- ② コストが比較的低い
- ③ 多くの果物で活用できる
- ④ 手軽に家庭にあるものを使ってできる
- ⑤ 1年中活用できる

左の条件を踏まえて、「果物染め」（廃棄された果物の皮や種、軸などから色を出したものを染料として、布などを染めること）が一番適していると考えた。

地域の農園さんから、腐ってしまい廃棄される予定のサクランボをいただき、サクランボ染めを行った。果物染めは、家にあるものを使用し、安全に行えると確認できた。私たちは、果物染めを多くの人に広めるため、学童クラブにご協力をいただき「果物染め体験会」を行う計画を立てた。体験会では、果物の収穫時期の兼ね合いで、果物ジュースを作っているまた別の地域の農園さんからいただいたブドウ(スチューベン)の皮を使った。体験会ではアンケートやパンフレットの配布も行った。

### 3. 企画の振り返り

企画を通し、果物染めを発信することの必要性や教えることの難しさ・手応えを感じた。学童の職員さんから「もっと色が濃く染まるといい」と意見をいただいた。また、班ごとに色に違いが出た。

### 4. 探究のまとめ

- ・廃棄される果物の食用以外の活用方法として、「果物染め」を実際に行い、条件に沿った活用ができた。
- ・果物染めを発信することで、果物の廃棄物について知るきっかけとなり、それらの新しい付加価値を認識してもらうことにつながった。

### 5. 今後の展望

- ・より多くの人に体験してもらうために、小中高生の教育活動やお年寄りのコミュニティの場として体験会を行い、「果物染め」について発信したい。
- ・染液の酸性やアルカリ性の強さによる色の違いやより色が濃くなる方法についての探究、多様な果物での実施も行いたい。

